

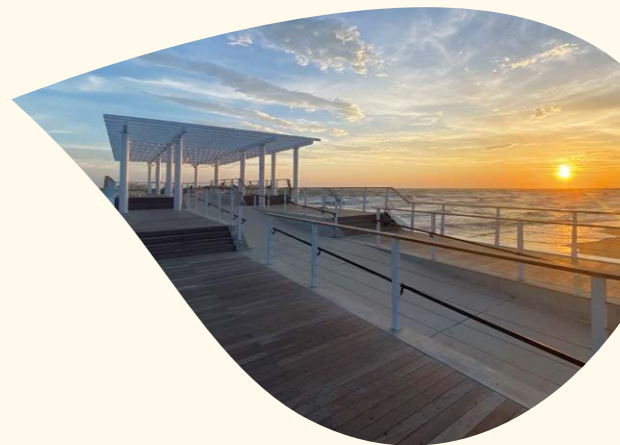
千葉開府 900年記念 GUIDE BOOK



千の葉に 時を刻んで 900年

千葉開府 900年

千葉開府
900年記念
GUIDE
BOOK



ごあいさつ



千葉開府900年記念協議会 会長
千葉市長

神谷 俊一

千葉市は、令和8年(2026年)、まちが開かれてから900年という大きな節目を迎えました。

平安時代後期の大治元年(1126年)、千葉常重が現在の中央区亥鼻の地に本拠を構え、千葉のまちとしての歴史が始まりました。幾多の困難を乗り越え、発展を続けてきた900年の歴史は、先人たちの挑戦と選択の積み重ねであり、そのバトンを受け取った私たちが次の10年、100年へとつなぐ役割を担っています。

千葉開府900年記念協議会では、開府の日に合わせた6月の「記念式典」や「記念まつり」、11月の「記念パレード」など多彩な事業を展開してまいります。

千葉のまちの成り立ちと歴史を振り返り、ふるさとの価値や魅力を改めて認識しながら、市民の皆様と千葉市のあるべき将来像を共有し、誇りと愛着の持てるより豊かな地域社会を私たちの手で築き上げ、次の世代へと引き継いでまいります。

令和8年(2026年)は、千葉のまちが開かれて900年という節目の年です。この節目の年をきっかけに、千葉の歴史やルーツをあらためて見つめ直し、次の「千葉開府1000年」へとつなげていきたい。そんな思いから、「千葉開府900年記念」のロゴとキャッチコピーを作成しました。

【ロゴマーク】



千葉のまちの歴史と未来、そして自然との調和を色と形で表現しています。

【キャッチコピー】

千の葉に 時を刻んで 900年

先人たちの900年の歩みと、市民ひとりひとりの小さな力を集めて輝く、千葉市の未来への期待を表現しています。

2026年度 主な記念事業スケジュール

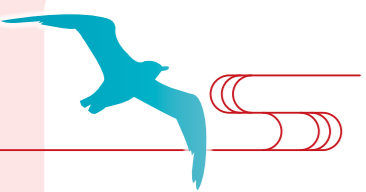
「千葉開府900年」を迎える喜びを分かち合い、千葉一族からの学びを現在と未来に活かす、さまざまな記念事業を展開します。

| | | | |
|-----|----------------|--|-----|
| 3月 | 下旬~4月上旬 | 千葉開府900年記念 千葉城さくら祭り | |
| 4月 | 1(水) | いのはな亭リニューアルオープン | |
| 6月 | 1(月) | 千葉開府900年記念式典(亥鼻公園) | P6 |
| | 6(土) | 千葉開府900年記念まつり(千葉JPFドーム) | P6 |
| | 13日(土)・14日(日) | ジャパンビーチゲームズフェスティバル千葉 | |
| 7月 | 18(土)~9/6(日) | 千葉市立郷土博物館 千葉開府900年記念特別展「千葉氏リターンズ -千葉に集う一族の900年-」 | P12 |
| | - | 高校生向けアントレプレナーシップ教育特別プログラム(国内研修) | P8 |
| 8月 | 2(日) | 1000万人ラジオ体操・みんなの体操祭(ZOZOマリンスタジアム) | P10 |
| | 上旬 | 千葉開府900年記念 幕張ビーチ花火フェスタ(千葉市民花火大会) | |
| | 15日(土) | 千葉氏サミット | P12 |
| 8月 | 15日(土)・16日(日) | 千葉開府900年記念 千葉の親子三代夏祭り | P7 |
| | - | 高校生向けアントレプレナーシップ教育特別プログラム(海外研修) | P8 |
| 9月 | 16(水)~11/23(祝) | 千葉市美術館「千葉開府900年記念特別展 天一月、星をもとめて(仮)」 | P11 |
| | - | 千葉開府900年記念 歴史を巡るサイクリング(緑区大椎町~中央区亥鼻) | P10 |
| 10月 | 10(土)~12/6(日) | 千葉市立郷土博物館 千葉開府900年記念特別展「千葉氏がつくったまちの900年(仮)」 | P12 |
| | 12(祝) | ワールドトライアスロンパラカップ千葉 | |
| 11月 | 14(土)・15(日) | 【ブレイキン】FreeStyle Session World Finals | P11 |
| | 21(土) | 千葉開府900年記念パレード(千葉駅前大通り) | P7 |
| 2月 | 6(土) | 千葉開府900年記念ウォーキング(緑区大椎町~中央区亥鼻ほか) | P10 |
| | - | 第3回千葉市いちごマラソン | P11 |
| 3月 | - | 千葉開府900年記念モニュメント除幕式(千葉駅付近) | P7 |

※日程は変更となる場合があります。

記念事業について
詳しくはこちら





千葉開府 900年のあゆみ



田岡春経《妙見尊出現の図》1967(昭和42)年

千葉市立郷土博物館蔵

※郷土博物館開館時に委託制作された横8メートル以上の壁画(日本画)

千葉常胤の父常重が中央区亥鼻付近に本拠を構えてから900年。近世には人とモノが行き交う陸路と海路の交通の要衝として栄え、明治時代には県庁が置かれ以降は県都として、千葉市制が施行されたのちも県内の政治・経済・文化の中心でした。そして戦後の復興、さらなる産業発展を経て、政令指定都市に移行、98万人が暮らす大都市千葉市へと発展しました。千葉のまちの礎を築いた千葉一族とまちの発展の物語を紹介します。

千葉のまちの成り立ち

原始・古代

悠久の時を刻む 千葉市の歩み

市域の歴史は、約3万年前の旧石器時代に始まります。縄文時代には加曽利貝塚をはじめ大きなムラが多数つくり、古墳時代につくられた古墳もたくさん見つかっています。

地名「ちば」は万葉集に載り、奈良時代には公的な地名として「千葉」の漢字が使われ始めます。「千葉」は約1300年前から知られる歴史ある地名なのです。

中世

千葉一族により まちとしての歩みが始まる

大治元年(1126年)、千葉常胤の父常重が現在の千葉市中央区亥鼻周辺に本拠を構え、「千葉介」を名乗った

ことが、「千葉のまちの始まり(千葉開府)」とされています。ここからまちとしての歴史が始まりました。

その後、千葉妙見宮(現・千葉神社)周辺の寺院には人々の信仰が集まり、都市の南岸には市が立ち(現市場町)、商業も発展。千葉一族の本拠地として、武家の力と宗教の力が重なり合うまちが形づくられていきました。

近世

水・陸交通の要衝として 栄えたまち

江戸時代には、現在の千葉市域は佐倉藩や生実藩、旗本領、幕府直轄領などに分かれて支配されていました。千葉のまちは、登戸と寒川の両湊と江戸を結ぶ海の道や、房総往還や佐倉街道・東金街道など陸の道が交差する、交通の要衝として発展していきます。

同時に、妙見信仰の中心である妙見寺(現・千葉神社)などの寺院が集まる門前町としての側面もありました。まちの中心を貫く現在の本町通り沿いには町場



富嶽三十六景のうち「登戸浦」

葛飾北斎画 船橋市西図書館蔵

がつくれ、多くの人や物資が行き来したと伝えられています。

近代

県都として 近代都市へと歩み出す

明治6年(1873年)、木更津県と印旛県が合併して千葉県が誕生し、その県庁が旧両県の境にあたる千葉郡千葉町(現・千葉市中央区)に置かれたことで、千葉は県内の政治・経済・文化の中核として本格的な都市化が進みます。

明治22年(1889年)の市制・町村制施行により千葉町が誕生し、大正10年(1921年)1月1日には県内で初



県庁(中央左)付近の航空写真(大正5年[1916年])

めて市制を施行して千葉市となりました。市街地の整備や鉄道網の発達により、人やモノが集まる「県都」としての基盤が築かれていきました。

戦後～現代

豊かな可能性が ひらくまち

太平洋戦争では、昭和20年(1945年)に二度の大規模な空襲を受け、市街地の約7割が焼け野原となりました。戦後は埋立地の拡大や千葉港の整備とともに、川崎製鉄(現・JFEスチール)などの大工場が臨海部へ進出し、千葉市は京葉工業地域の中核として工業・物流の拠点へと発展します。一方、内陸部では住宅地の拡大や周辺町村との合併が進み、市域は大きく広がりました。平成4年(1992年)の政令指定都市移行後は、千葉都心・幕張新都心・蘇我副都心の役割を活かした、複数の核をもつ都市構造が形づくられました。

近年は千葉駅周辺の大規模再開発により駅前が活性化し、千葉市をホームタウンとするスポーツチームの活躍や、稲毛海浜公園・千葉公園のリニューアルなどによって、観光の魅力も高まっています。古くから水・陸交通の結節点として栄えた千葉のまちは、いまや人口98万人を抱える首都圏の主要な拠点都市として成熟を深めています。



中央区富士見1丁目付近

第3回市制100周年記念「わたしのまち」フォトコンテスト応募作品

市内に残る900年の歴史の足跡

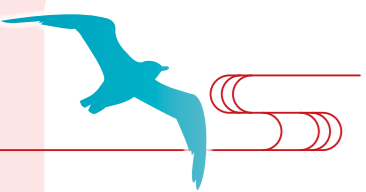
市内には千葉のまちの歴史を感じられる史跡やスポットが数多く残っています。千葉市立郷土博物館がある亥鼻公園(千葉市中央区亥鼻)周辺にも「猪鼻城跡」や「お茶の水」など多くの千葉氏ゆかりの史跡があります。千葉一族の活躍の歴史を感じながら千葉のまち歩きをしてみるのはいかがでしょうか。



「千葉氏ゆかりの史跡・伝承スポット」



お茶の水



千葉開府900年に向けて

千葉開府記念行事をふりかえる 800年、850年

大正10年(1921年)、人口約3万4千人の千葉町は市制を施行し、「千葉市」として新たな歩みを始めました。その後、本市では6月1日を「千葉開府の日」と位置づけ、50年ごとに記念事業を実施してきました。

市制施行間もない大正15年(1926年)6月1日、千葉氏800年の恩恵を踏まえ、市民とともに千葉氏の霊を慰めるとともに、市の紹介と将来の発展に資するため、記念祭にあわせて様々な催事を実施する千葉開府八百年祭をはじめ開催しました。この八百年祭は6日間も続き、全市をあげての大祝典となったそうです。

千葉駅、本千葉駅、京成千葉駅には大アーチが立てられ、市内各所に装飾が施されたほか、講演や青年大会、小学校・中学校・師範学校の旗行列、県下庭球大会が開かれました。記念事業は、歴史にちなんだものだけでなく当時の技術を紹介する各種展覧会も開かれました。



千葉開府八百年祭(大正15年(1926年))
本千葉駅前(現京成千葉中央駅付近)の大アーチ

戦後の経済成長と人口増加のさなかに行われた昭和51年(1976年)、開府から850年を記念し、千葉開府850年記念事業が行われました。「知ろう、愛そう、つくろう、郷土千葉」のテーマのもと、歴史を振り返り、未来に残したいものや「市としてあるべき姿」を目指して様々な事業が実施され、記念式典や記念パレードの実施の他、「千葉の親子三代夏祭り」や「新春市民風あげ大会」など、現在にも続くレガシーとも言える取組みが創出されました。

いずれの節目も、市民がまちの歴史を振り返り、未来について考える大切な機会となりました。



千葉開府850年記念式典

そして2026年、開府900年へ

令和8年(2026年)、いよいよ千葉開府900年という節目を迎えます。現代は社会や経済の変化が激しく、将来の予測が難しい時代と言われています。私たちには「自ら未来を切り拓く姿勢と行動」がこれまで以上に求められています。このまちを開いた千葉一族は、動乱の時代にあって知力と胆力をもって挑戦を重ね、未来を切り拓きながら持続的な都市経営を行いました。そのチャレンジスピリットを、今を生きる私たちが受け継ぎ、日々の暮らしや活動の中で実践していくことこそが、「千葉開府900年」の最も大きな意義と言えるでしょう。

こうした考えのもと、市民、団体、企業、大学、行政など多くの皆様が、この歴史的節目を迎える喜びを分かち合いながら、千葉一族からの学びを活かした記念事業を展開していきます。そして、開府1000年のその先までを見据え、次代を担う子どもや若者が千葉市に誇りを持てる、より豊かな未来につなげていきます。



千葉開府まつり2025

千葉開府900年記念事業について

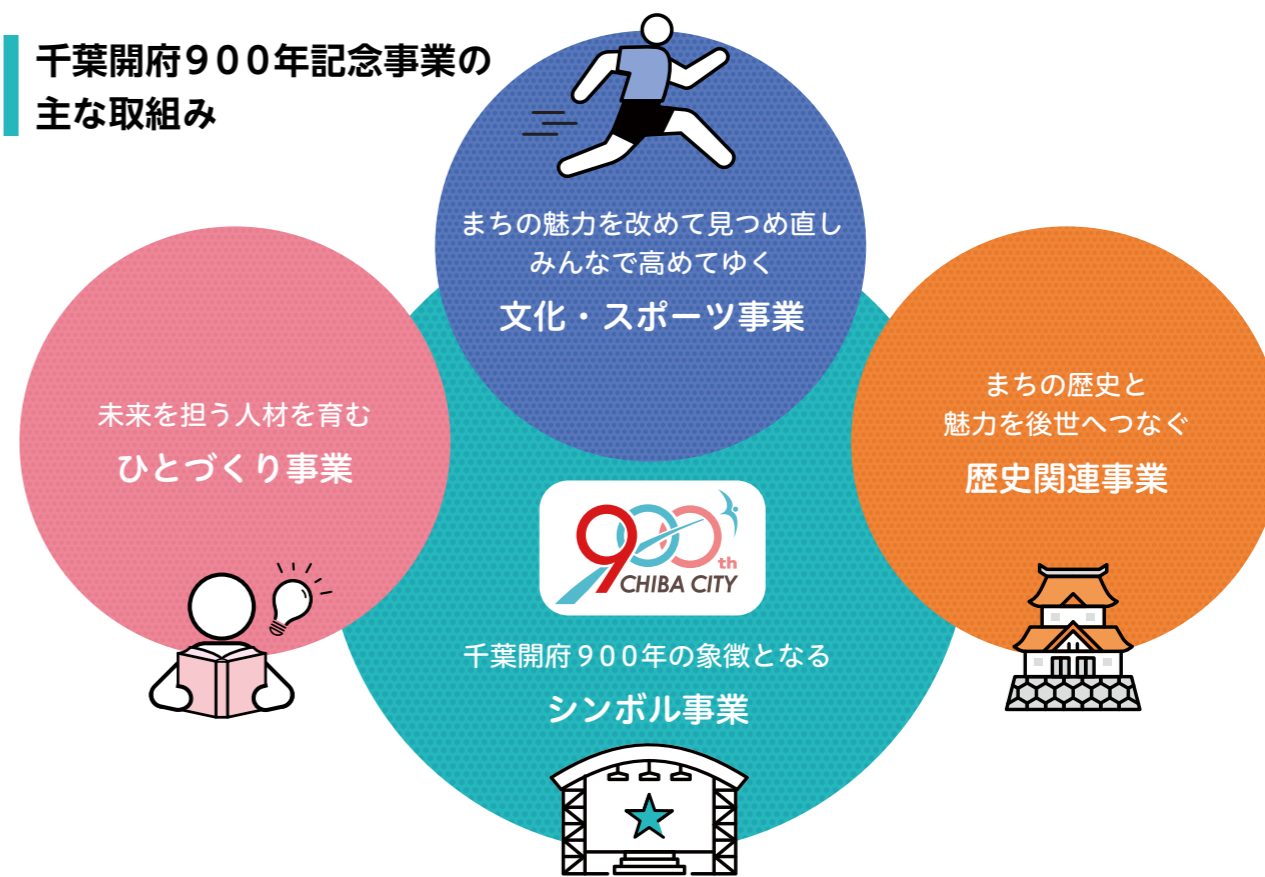
基本理念は、本市の開祖である千葉一族の軌跡をあらためて振り返り、その中から得られる学び「未来を切り拓くチャレンジスピリット」を市民と共有し、次の時代へ活かしていくことにあります。年齢や性別、国籍、障害の有無にかかわらず一人ひとりが自分らしく活躍できる社会を目指し、とくに子どもや若者の主体的な学びと成長を支えるとともに、成熟した大都市にふさわしく、市民が芸術やスポーツなど多様な文化に親しむ機会を広げていきます。さらに、「ひとづくり」「文化づくり」を通じて、地域社会や経済活動の中長期的な活性化につなげていきます。

[基本理念]

千葉一族からの
学びを活かし、
未来へ向けたひとづくり、
文化づくり



千葉開府900年記念事業の 主な取組み



ち 千葉国際芸術祭2025 Chiba City Arts Triennale 2025 ちから、ひらく。

千葉開府900年を記念し、シンボル事業として「千葉国際芸術祭2025」が開催されました(集中展示・発表期間:令和7年9月19日~令和7年11月24日)。「ちから、ひらく。」をコンセプトに、地域の可能性をひらく市民参加型アートプロジェクトの祭典として国内外32組のアーティストが千葉市内各所で活動・発表を行いました。



33年後のかえる 提供:千葉国際芸術祭実行委員会



千葉開府900年を象徴する5つのシンボル事業

—「歴史の節目」に、未来に向けた新たな一歩を

千葉開府900年を記念し、千葉のまちの歴史と、今を生きる私たち、そして未来の子どもたちを結ぶシンボル事業を実施します。千葉一族ゆかりの亥鼻の丘から、最新のエンターテインメント空間、千葉駅前大通り、駅前広場まで、まち全体を舞台にした一年間を通しての注目プロジェクトです。

Event 01 千葉開府900年記念式典 **6月**
亥鼻からはじまる「千葉開府の日」

日程：令和8年6月1日(月)
 会場：亥鼻公園(騎馬武者像の前広場)

千葉一族が本拠を構えた亥鼻の地で、「千葉開府の日」を祝う記念式典を行います。千葉市消防音楽隊の吹奏楽演奏や記念動画の上映、来賓挨拶などを予定しています。未来を担う若者代表のスピーチや、市ゆかりの著名人からのお祝いメッセージ動画、中学生による市歌合唱などを通じて、「歴史のバトン」を次の世代へとつなぎます。



Event 03 千葉開府900年記念 千葉の親子三代夏祭り **8月**
世代をつなぐ熱気のうねり

日程：令和8年8月中旬
 ルート：千葉市中央公園周辺

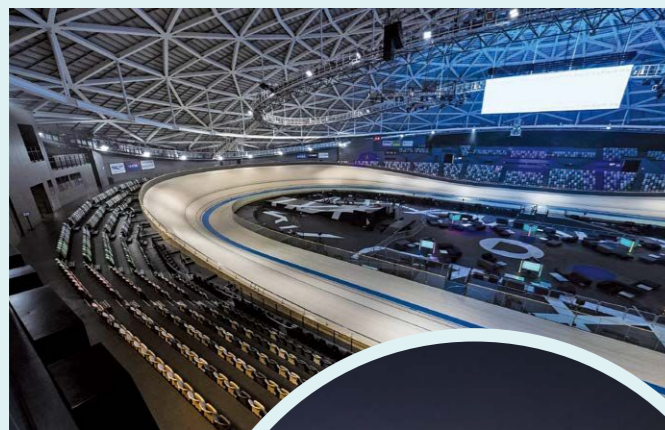
昭和51年(1976年)、千葉開府850年記念事業のクライマックスとしてスタートした千葉の親子三代夏祭り。威勢の良いみこしや山車の渡御をはじめ、パレード、よさこい鳴子踊りなどイベントが満載。そして、2千人規模で街を練り歩く「千葉おどり」がラストを飾ります。



Event 02 千葉開府900年記念まつり **6月**
まちの誕生を祝う市民フェス

日程：令和8年6月6日(土)
 会場：千葉JPFドーム

「千葉のまちの誕生を、市民みんなでお祝いする」をテーマに記念まつりを開催します。千葉公園で行われるオオガハスをテーマにした夜のアートイベント「YohaS」と同日開催としており、千葉公園エリアと連携しながら、多くの市民でにぎわう場を創出します。千葉の魅力や歴史、文化に親しめる多彩なプログラムを展開し、幅広い年代の市民に楽しみながら参加してもらうことを目指します。



Event 04 千葉開府900年記念パレード **11月**
過去・現在・未来が行進する

日程：令和8年11月21日(土)
 ルート：千葉駅前大通り(スタート:千葉駅前 ゴール:中央公園)

千葉開府900年の記憶を次代へつないでいく記念パレードを行います。千葉一族を模した騎馬武者、千葉市を代表するプロスポーツチーム、将来を担う子どもたちなど、千葉市の過去・現在・未来をイメージしたさまざまな団体が行進します。

当日は千葉駅前大通りの沿道に観覧エリアを設け、「夢のわ」イルミネーションの点灯式とも連携し、誰もが楽しめる空間となります。



Event 05 千葉開府900年記念モニュメント **3月完成**
千葉一族の姿を未来へ残す

設置時期：令和9年3月～ 設置場所：千葉駅付近

千葉開府900年の節目を未来にわたって記憶にとどめるため、千葉一族の活躍をイメージした記念モニュメントを設置し、令和9年(2027年)3月に除幕式を行う計画です。千葉市の新たなランドマークが誕生します。



千葉開府900年を未来へつなぐ「ひとづくり事業」

— 千葉で学び、世界へはばたく子ども・若者を育む

「歴史を知り、まちを愛し、自分の力で未来を切り拓く人」を増やすことをめざして、子どもから若者、地元企業までを対象とした「ひとづくり事業」を展開します。高校生向けの実践的な学びの場から、企業との連携プロジェクト、学校での郷土学習まで、多彩なプログラムを用意しています。

Program 01

高校生向けアントレプレナーシップ教育特別プログラム CHIBA CITY INNOVATORS ACADEMY

時期：令和7～8年度
対象：千葉市内在住の高等学校生または高等専門学校生
※その他条件あり



予測がむずかしい時代に、自分で課題を見つけ、主体的に新たなキャリアを切り拓くことができる力を育てる2年間の特別プログラムです。1年目は、社会課題の深掘りや解決策の発想法、ビジネスプランの作り方、プレゼンテーションスキルなど、起業家精神（アントレプレナーシップ）を学ぶ基礎編です。2年目には、国内・海外それぞれのフィールドに分かれて、起業家や実務家との意見交換、ビジネスプランの発表などを通じて、学びを実践につなげていきます。千葉市から次世代のイノベーターを育てることを目指します。

Program 02

千葉市海外展開実践研修プログラム(C-GATE)



時期：令和7～8年度
対象：海外展開を視野に入れた事業者

千葉市から世界へと羽ばたき、グローバル市場に挑戦する企業を後押しする2年間の特別プログラムです。1年目は、海外展開の意義や基礎知識、最新トレンドを習得し、海外展開戦略や英語でのプレゼンテーションの磨き上げを行う国内研修を行います。2年目には、国内で渡航前の個別伴走支援を行ったのち、アメリカ・シリコンバレーに渡航し、海外への製品やサービスの展開に向けた協業や連携など関係構築を目的とした約1週間の海外研修を実施します。帰国後もフォローアップを行い、市内経済を牽引するグローバルな企業の育成・輩出を目指します。

Program 03

企業連携による若者参加企画

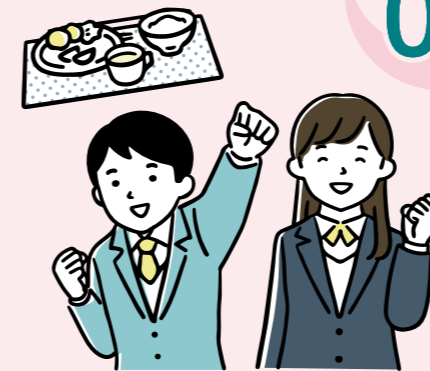
実施時期：令和8年度
対象：企業および市内の大学、高校、専門学校などに通う学生

千葉市には、若者に人気の商品・サービスを提供する企業や、全国・海外で展開する企業が多数あります。そうした企業と、大学生・高校生・専門学校生など若者世代がチームを組み、地域の課題や魅力を踏まえた新しい事業を企画・実施します。企画づくりを通して、自分の暮らすまちの未来を考え、地元企業とのつながりを実感できる機会とします。また、異なる学校・背景をもつ若者同士が出会い、協働する中で、新たなネットワークが生まれることも期待されています。



Program 04

中学生による記念事業の企画実施



千葉開府900年をきっかけに、「自分たちの記念事業を自分たちでつくる」取り組みも行います。令和8(2026)年度、市立中学校などの生徒会が中心となり、各校ごとにオリジナルの記念事業を企画・実施します。地域の歴史や魅力を伝える展示や、未来の後輩に向けたメッセージ作成など、内容は学校ごとにさまざま。あわせて、全市一斉の郷土学習として、千葉開府の日に合わせた特別授業を行います。さらに、千葉一族ゆかりの地にちなんだ給食メニューも提供し、歴史にふれるきっかけをつくります。

Program 05

郷土教育のためのデジタルコンテンツ制作

主に市内の小中学生向けに、自分たちのまちへ興味関心を持ち、誇りと愛着を育むきっかけとするため、千葉のまちの成り立ちについて学べるデジタルコンテンツを制作しました。タブレットなどで使用でき、学校や家庭でも活用できます。





千葉開府900年を楽しみながら体感する「文化・スポーツ事業」

— まちなかがステージになる、からだと心の記念イヤー —

千葉開府ゆかりの地を巡るサイクリングやウォーキングのほか、アート体験、ブレイクダンス、大人から子どもまで楽しめるラジオ体操やマラソン大会など、とりどりの文化・スポーツ事業を展開します。

Event 01

千葉開府900年記念 歴史を巡るサイクリング

日程：令和8年10月24日(土)
ルート：緑区大椎町～中央区亥鼻

千葉開府の始まりの地、緑区大椎町をスタートし、中央区亥鼻まで約30kmを走るサイクリングイベントです。千葉市の多彩な景色や食を楽しみながら走ることができます。当日はサポートスタッフの伴走やサポートカーの巡回もあり、初心者の方でも安心して参加できます。



Event 02

千葉開府900年記念ウォーキング

日程：令和9年2月6日(土)
ルート：緑区大椎町～中央区亥鼻ほか

千葉開府の歴史にちなみ、緑区大椎町から中央区亥鼻までを歩くウォーキングイベントです。千葉開府の足跡をたどるコースのほか、亥鼻公園周辺を巡るコースも設定し、自分に合ったコースを選んで気軽に参加できます。千葉市ならではのグルメの提供もあり、千葉開府900年の歴史を体感するのはもちろん、味覚も堪能できます。



Event 03

1000万人ラジオ体操・みんなの体操祭

日程：令和8年8月2日(日) 朝5時50分～6時45分
会場：ZOZOマリンスタジアム ※荒天時会場は千葉ポートアリーナ

「1000万人ラジオ体操・みんなの体操祭」は、年に一度開催される国内最大級のラジオ体操イベントです。千葉市では、平成8年(1996年)8月に千葉マリンスタジアムで開催されて以来、30年ぶりの開催となります。NHK総合テレビおよびラジオ第1で全国に生放送され、さらにNHKの国際放送を通じて世界各地にも届けられます。皆さんの元気を千葉市から国内外に向けて発信していきましょう！



千葉市の元気を市内外へ発信！ ©C.L.M.



かんぽん
企業キャラクター
かんぽん



ゆめちゃん

Event 04

千葉開府900年記念 千葉市美術館企画展

日程：令和8年9月16日(水)～11月23日(月・祝)
場所：千葉市美術館

千葉開府900年にちなんだ特別企画展「天一月、星を求めて(仮)」を開催します。大テーマは、妙見信仰や北極星・北斗七星への信仰を手がかりにした「天」。千葉一族を結び、まちづくりの核となってきた信仰の歴史から、「月と星」をめぐる古美術から現代アートまでさまざまな作品を紹介します。大型作品の修復と再生もテーマのひとつ。千葉の歴史や伝説と現代の表現をつなぎ、未来へと想像力をふくらませる展覧会です。



田岡春徑《妙見尊出現の図》
1967(昭和42)年
千葉市立郷土博物館蔵
※郷土博物館開館時に委託制作された
横8メートル以上の壁画(日本画)



宮島達男《地の天》
発光ダイオード・IC・電線・木製パネル
1996(平成8)年 千葉市美術館蔵

Event 05

【ブレイキン】FreeStyle Session World Finals

日程：令和8年11月14日(土)・15日(日)
会場：千葉JPFドーム

世界トップレベルのキャストを迎えたブレイクダンスの世界大会を開催します。



Event 06

第3回千葉市いちごマラソン

日程：令和9年2月予定

若葉区の企業や商店、自治会などと連携し、区の魅力の一つである「いちご」をPRするマラソンイベントです。給水所では水分補給だけでなく、おいしいいちごを食べることができます。家族や仲間と一緒にマラソンといちごを楽しんで、笑顔になれるイベントです。





歴史関連事業

千葉開府900年を深く知る「歴史関連事業」

— 千葉一族のあゆみと、まちの900年をひもとく

千葉一族の歴史に光を当てながら、千葉市が歩んできた900年の物語をダイナミックに伝えます。千葉市立郷土博物館のリニューアルや特別展、史料集の刊行、遺跡の発掘調査、ゆかりの都市との交流などを通じて、市民一人ひとりが自分たちのルーツを見つめ直すきっかけをつくります。

Program
01

千葉市立郷土博物館 展示リニューアル

「千葉城」の名で地域に親しまれている千葉市立郷土博物館が、「郷土千葉のあゆみ、そのダイナミズム（躍動感ある変遷）がわかる博物館」への再生をコンセプトに、令和7年(2025年)11月8日にリニューアルオープンしました。展示テーマは「陸と海・人とモノを結ぶ『千葉』」。「原始・古代」と「近世」の展示が新たに加わり、体験型の展示や千葉介ナビを導入するなど千葉一族の活躍と千葉のまちの通史を楽しみながら学べます。

●千葉開府900年記念特別展
「千葉氏リターンズ —千葉に集う一族の900年—」
期間：令和8年7月18日(土)～9月6日(日)

全国に広がった千葉一族の活躍に焦点を当て、千葉氏サミットの参加市町などにおける千葉一族の果たした役割について紹介するとともに、各地に伝えられたゆかりの品々を展示します。

●千葉開府900年記念特別展「千葉氏がつくったまちの900年(仮称)」
期間：令和8年10月10日(土)～12月6日(日)

千葉一族が本拠を移したことにはじまるとされる千葉のまち。開府以降発展を続けたまちの古代から近代に至る900年の変遷を紹介します。



郷土博物館（千葉城と騎馬武者像）



郷土博物館2F
五大力船模型

千葉市立
郷土博物館
CHIBA CITY FOLK MUSEUM

Program
03

街の発展がわかる記念動画



都川などの河川から東京湾へとつながる水運や、街道の結節点としての機能に着目し、千葉一族が本拠を構えたことによって発展してきた千葉のまちの歴史。リニューアル後の千葉市立郷土博物館の新テーマ「陸と海・人とモノを結ぶ『千葉』」と連動し、まちの成り立ちを視覚的に分かりやすく伝える動画を、令和7(2025)年度に制作しました。令和8年(2026年)6月以降、記念式典や記念まつりなどで上映します。

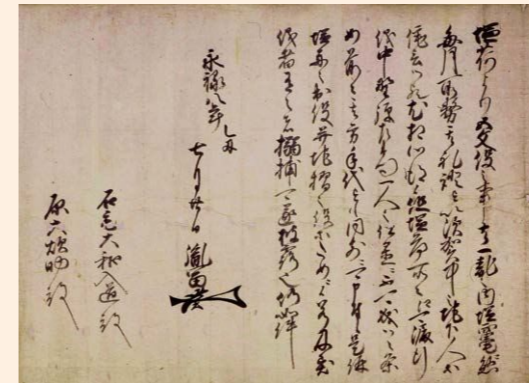


千葉開府900年
記念コンテンツ

Program
04

千葉氏史料集の刊行

千葉開府900年を機に、千葉一族に関する史料を体系的に紹介する約700ページの史料集を刊行します。長年にわたる史料調査の成果をまとめ、市民や研究者に広く公開することが目的です。冒頭にはカラーページを約100ページ収録。令和8年(2026年)3月に1,500部を発行しました。



千葉胤富判物・市指定文化財

Program
05

千葉氏関連遺跡の発掘調査

千葉市埋蔵文化財調査センターによる千葉一族関連遺跡の発掘調査も進められます。令和7(2025)年度には通町公園内の院内遺跡を調査し、その成果を整理して令和7(2025)年度に調査成果の概要版を刊行、そののちには本格的な報告書を刊行する予定です。過去の公園整備工事では、康永3年(1344年)の銘をもつ梵鐘が発見され、市指定有形文化財となっており、今回の調査でも新たな歴史像の解明が期待されています。



大日寺跡から出土した梵鐘・市指定文化財

Program
02

千葉氏サミット

時期：令和8年8月15日(土)
場所：千葉市文化センター

「千葉氏」という共通の歴史資源を持つ全国の自治体が集う「千葉氏サミット」は、平成28年(2016年)に初めて開催され、令和8(2026)年度で4回目となります。今回は著名な先生による、中世の城や都市の様子など地域の歴史に興味をわく特別講演の他、首長フォーラムを通じて千葉一族ゆかりの都市同士の連携を深めます。

また、11月には「第3回千葉氏子どもサミット」をオンラインで開催し、ゆかりの自治体の児童の交流を深めます。



●ゆかりの都市

岩手県一関市・宮城県涌谷町・福島県相馬市・南相馬市・岐阜県郡上市・佐賀県小城市・千葉県佐倉市・酒々井町・多古町・東庄町・成田市・千葉市

みんなで作る千葉開府900年

千葉開府
900年
記念

千葉開府900年記念メンバーシップ登録制度

市内外を問わず、市民・団体・事業者が参加できる制度です。千葉開府900年を記念するイベントの開催や記念キャンペーンの実施、記念商品の企画・販売など、各メンバーが自らのアイデアで「千葉開府900年」を盛り上げることを目的としています。現在、200者以上のメンバーが登録しており、今後も制度の周知やメンバー交流会の開催を通じて、メンバー同士の連携や新たな取組みの創出を目指します。

運用期間 令和9年3月31日まで

登録メンバー特典

- 千葉開府900年記念特設ホームページやSNSでの活動紹介
- のぼり旗・ポスターなどPRグッズの貸出
- 千葉開府900年記念クラウドファンディング特設サイトへの掲載支援



メンバー交流会

千葉開府900年に向けたクラウドファンディング活用支援

千葉開府900年を契機に、まちのこれからの担う若者や新たな事業に挑戦するチャレンジスピリットを持った方々のやりたい、実現したいをサポートするクラウドファンディング活用の支援を令和6(2024)年度より実施。千葉市初のワイナリーの開業など900年を契機とした多彩なプロジェクトが生まれています。



「千葉開府900年記念クラウドファンディング活用支援事業」



千葉開府900年関連コンテンツ

記念事業の認知度向上と参加の輪を広げるため、さまざまなコンテンツを発信しています。

- 千葉開府900年記念 特設ホームページ



千葉開府900年記念特設ホームページ



特設ホームページ

- 千葉氏ポータルサイト

映像コンテンツ

千葉氏を主人公にしたゲーム風PR動画「千葉開府 月と星の伝説」
千葉氏の活躍を疑似体験できるVRゲーム「月星の記憶」



千葉氏ポータルサイト



千葉氏ポータルサイト

- マンガ

「千葉常胤公ものがたり」



▲PR動画「千葉開府 月と星の伝説」



月と星の伝説



▲千葉氏VRゲーム「月星の記憶」



千葉市



千葉常胤公ものがたり

これからの千葉市のまちづくり

—開府1000年に向けて—

かつて千葉一族が本拠を構えたこの地は、海と大地、街道と河川が交わる場所として、人やモノ、文化が行き交う「結び目」として発展してきました。

少子高齢化や気候変動、デジタル化の進展など、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。だからこそ、本市に関係するすべての皆さんが自分らしく暮らし、支え合い、挑戦できるまちであり続けることが、豊かな千葉市をつくっていきます。

千葉開府900年は、単に過去をたどるだけではなく、先人が築いた歴史や文化、豊かな自然から新たな魅力や価値を発見するとともに、現在を見つめ直し、未来への展望を描いていくスタートラインです。今を生きる私たち、次の世代の子どもたち、そのまた先の世代までが、このまちで暮らすことに幸せを感じ、愛着と誇りを持てるように。一人ひとりが自分なりのかたちで、そして誰もが「千葉市」に関わることで、1000年へと続く千葉のまちの新しい物語を紡いでいきます。



政令指定都市移行・区設置30周年フォトコンテスト応募作品 @kozrinco_padelさん

第2回千葉市制100年記念フォトコンテスト応募作品 @nobi_nobi_baby_kidsさん



2026年は千葉開府900年
オリジナルの葉っぱで千葉開府900年を彩ろう！



見どころいっぱい!

千葉市の魅力 スポット

千葉市は、日本の玄関口である成田空港や東京都心部から約30分圏内と交通アクセスに恵まれ、首都機能の一翼を担う大都市として発展する一方、豊かな緑と海辺の自然環境に恵まれた県都です。



ZOZOマリスタジアム



花島公園

千葉公園



加曽利貝塚

千葉市動物公園



泉自然公園

千葉市昭和の森



千葉ポートタワー



稲毛海浜公園



千葉市美術館



千葉市立郷土博物館

- ①… 亥鼻公園
- ②… 千葉市立郷土博物館
- ③… 中央公園
- ④… 千葉市美術館
- ⑤… 千葉市科学館
- ⑥… 千葉公園
- ⑦… 千葉神社
- ⑧… 千葉ポートタワー
- ⑨… ケーズハーバー
- ⑩… フクダ電子アリーナ
- ⑪… 千葉市役所
- ⑫… 千葉県立美術館
- ⑬… 加曽利貝塚
- ⑭… 千葉市動物公園
- ⑮… 泉自然公園
- ⑯… 千葉ウシノヒロバ
- ⑰… 幕張メッセ
- ⑱… ZOZOマリスタジアム

- ⑲… BOTANICA MUSEUM
- ⑳… 稲毛ヨットハーバー
- ㉑… 稲毛海浜公園
- ㉒… 花島公園
- ㉓… 千葉市民ギャラリー・いなげ (旧神谷傳兵衛稲毛別荘)
- ㉔… 千葉市昭和の森
- ㉕… ホキ美術館



◎千葉市へのアクセス

- 東京駅から
JR総武線快速で約30分(東京駅~千葉駅)
JR京葉線(快速)で約42分(東京駅~蘇我駅)
- 東京ディズニーリゾートから
JR京葉線で約25分(舞浜駅~海浜幕張駅)
- 羽田空港から
高速バスで約55分(羽田空港~海浜幕張駅)
高速バスで約90分(羽田空港~千葉駅)
- 成田空港から
特急列車(成田エクスプレス)で約30分(成田空港駅~千葉駅)
高速バスで約45分(成田空港~海浜幕張駅)



千葉開府900年記念事業への寄附について

千葉開府900年記念事業の趣旨に賛同し、本事業へご寄附いただけるパートナー（企業・個人）を募集しています。ご寄附いただいた金額に応じてステータスの設定および、記念グッズの進呈、式典への招待、記念モニュメントへの名前の刻印など多彩な返礼メニューをご用意しております。個人の方は「ふるさと納税」を通じた支援も可能です。また、100万円以上のご寄附をいただいたパートナーの方には市長より感謝状を贈呈いたします。

千葉市のこれまでの歩みを振り返りながら未来へつなぐ、記憶に残る催しとして実現するためには皆様のお力添えが欠かせません。本事業

にご理解をいただき、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願いたします。



ご寄附については
こちら



令和7年(2025年)8月27日、株式会社千葉銀行様および大和ハウスリアルティマネジメント株式会社様に感謝状を贈呈

千葉開府900年記念事業パートナー紹介



プラチナ
パートナー



Daiwa House Realty®
大和ハウスグループ



京葉銀行



ちば興銀

千葉開府900年記念事業パートナー紹介



ダイヤモンド
パートナー



ちばきん



JFE



ゴールド
パートナー



自然環境を考える総合リサイクル企業
株式会社 富澤商店

Kinden きんでん

® 塚本総業株式会社

鵜沢建設株式会社



千葉信用金庫



株式会社 タキサワ



株式会社千葉東建設

PEPPE

ちばテレ

千葉開府900年記念事業パートナー紹介



シルバー
パートナー



NTT東日本株式会社



今日のあじさ 明日の健康
FURUYA



NOZAKI KENKO
ノザキ建工株式会社



千葉商工会議所
THE CHIBA CHAMBER OF COMMERCE AND INDUSTRY



ブロンズ
パートナー

千葉スズキ販売株式会社

千葉県経済同友会

一般社団法人千葉県経営者協会

株式会社レインカラーズ

千葉県酒類販売株式会社

株式会社京葉美装

一般社団法人日本消防防災UNITE機構

森島 弘道

株式会社ゼンリン

千葉開府900年記念協議会とは

千葉開府900年に向けた記念事業を市全体で推進するため、市内の経済団体、学術機関、文化・スポーツ・福祉団体、メディアなどが参加する「千葉開府900年記念協議会」が、令和5年(2023年)11月14日に設立されました。



詳しくはこちら

◎協議会構成団体一覧

千葉市／千葉県警察千葉市警察部／国立大学法人千葉大学／千葉商工会議所／一般社団法人千葉県経営者協会／千葉県経済同友会／千葉市商店街連合会／公益社団法人千葉市観光協会／千葉市町内自治会連絡協議会／千葉市を美しくする会／千葉市文化連盟／公益財団法人千葉市スポーツ協会／千葉市民生委員児童委員協議会／社会福祉法人千葉市社会福祉協議会／千葉市青少年育成委員会／公益財団法人千葉市教育振興財団／東日本旅客鉄道株式会社千葉支社／千葉みらい農業協同組合／千葉テレビ放送株式会社／株式会社千葉日報社／日本放送協会千葉放送局／株式会社バイエフエム

千葉開府900年記念ガイドブック
発行日／令和8年(2026年)3月31日
発行／千葉開府900年記念協議会
住所／千葉県千葉市中央区千葉港1番地1

最新情報は
公式SNS、WEBを
チェック！



公式SNS



公式WEB